

アラカルト

千葉県セメント卸協同組合専務理事



平井正樹さん

hirai masaki

相互扶助の精神で
五輪後を乗り切る

セメントの共同購買事業を中心とする千葉県セメント卸協同組合（本部・千葉市、矢島一郎理事長）では、県内で販売されている袋セメントはすべて組合を経由させるシステムを採用、品質や価格の安定を保っている。また、研修や講習会の実施などで組合員の連携推進にも力を入れている。

平井専務理事は、「当組合は、昭和62年に販売店の経済的地位の向上を図ろうと、県内の業者が結集して設立されました。セメント価格が低迷を極めていた時代です。現在も相互扶助の精神は変わらず、平成21年には中小企業等協同組合法施行60周年記念表彰として、経済産業省から表彰も受けました」と説明する。袋セメント業界で初の受賞である。

「セメントの品質保証と適正価格の維持、安定供給、組合員の債権保証システムなどが評価されました。当組合ではこれを励みに、さらなるステップアップを目指しています」

●「組合士」もアップグレードを

平井専務理事が前任の専務理事の勧めで検定試験を受験、組合士に認定されたのは平成14年。今年度の「優良組合士」として表彰も受けている。

「長年セメントメーカーに勤務していましたが、平成13年に当組合に移りました。私も組合士として貴重な体験をさせてもらっています。本来の業務の他にも上部団体であるセメント卸協同組合連合会の監事を務

めさせていただき、連合会監事として関東地区のセメント卸協同組合の相談業務などにも携わることができました。また、自宅マンションの管理組合の理事の業務にも組合士の価値を実感しています」と笑顔を見せる。

現在も全国中央会のスキルアップ研修などに積極的に参加している。「全国中央会の研修は充実しており、参加者との交流も刺激になります。そこで考えたのですが、キャリアを積んだ組合士に上級の認定資格を付与する制度があってもよいのではないのでしょうか。たとえば『主任組合士』や『マイスター組合士』などの名称で、県や中央会は上級の組合士が作成した書類は無審査とするなどの特典を与えれば、組合士の存在意義が目されると思います。組合の事務がスムーズになれば県や中央会の事務負担も軽減できると考えています」

すでに活躍している組合士のモチベーション向上も望めるとのことで、興味深い。

●今こそ相互扶助の精神で

現在、建設業界は空前の好況が続いているが、セメント業界の今後の課題についても聞いた。

「現在の好景気も平成32年の東京オリンピックまでの見方が強いですね。その後の需要減にどう対応するか、新たな観点から模索することになると思います。取扱量は不況や工法の変化でピークの7分の1まで落ち込んでおり、結果として組合の受取手数料の収入も激減していますが、組合員の結束と営業努力により適正価格で県内全域に供給できるようにしています」

同組合は結束が強く、組合行事の参加率も高い。講師を招いての講演や地区ごとの情報交換会など年に30回以上の会合を設けており、毎回多数の参加がある。

「組合員は同業者のライバルですから、共に講演を聞いたり食事をしたりすることで、仲間意識を醸成し、ビジネスの連携につながればと思っています」

講演のテーマも「日本の防衛の現状」や裁判員裁判など多岐に渡る。

「また、千葉県には現在の旭市を拠点に活躍、世界初の農業協同組合（先祖株組合）を創設した江戸時代後期の農政学者・大原幽学（おおはら・ゆうがく）の記念館もあります。こんな時代こそ協同組合の精神の礎である『相互扶助』が再認識されればと思っています」

相互扶助の精神があれば、逆境も乗り切ることができる。今後の躍進にも注目したい。